

令和8年度 富山県衛生研究所 研究成果発表会

1. 日時 令和8年11月13日(金) 14:30~16:40
2. 場所 富山県薬事総合研究開発センター 創薬研究開発センター 2階大会議室
(富山県射水市中太閤山 17-1)

3. 内容

(1) 開会・衛生研究所の概要(14:30~14:40)

(2) 基調講演(14:40~15:10)

『麻しん・風しんの今日的意味』

所長 大石 和徳

小児期の定期接種導入により、麻しん・風しんは大人の疾患へと変貌しましたが、2000年以降も国内では集団感染が繰り返されてきました。その後、WHOは国内での麻しん排除、風しん排除をそれぞれ2015年、2025年に認定しました。しかし、コロナ禍後に再び国内で麻しんが流行し、今年は富山県内でも8例の集団事例を経験しました。本講演では国内での麻しん・風しんの現状について概説します。

(3) 研究成果発表(15:10~16:40)

① 富山衛研における麻しんの検査体制

ウイルス部 部長 谷 英樹

富山県衛生研究所における麻しんの検査体制と検査技術を紹介しします。保健所(厚生センター)からの検体受入れから迅速な結果返却までの検査体制、リアルタイムPCRによるウイルス遺伝子検出、陽性検体の遺伝子解析に加え、患者血清の抗体評価や人工疑似ウイルスを用いた中和抗体測定系の構築など、麻しんの迅速診断から疫学・血清学的解析までの取り組みについて報告します。

< 休憩 10分 >

② 富山県における梅毒の発生状況

研究企画部 主任研究員 早風 郁美

全国の梅毒報告数は2011年以降増加傾向にあり、2023年には感染症法が施行された1999年4月以降最多の15,055例となりました。富山県でも近年増加傾向が続き、2025年に最多の56例となりました。本発表では、富山県における梅毒の発生状況と、今年度実施している実態把握に関する調査についてご紹介します。

③ 富山県で発生した腸管凝集付着性大腸菌食中毒事例の概要

細菌部 副主幹研究員 木全 恵子

腸管凝集付着性大腸菌(EAEC)は下痢を引き起こす大腸菌のひとつです。2025年に県内の宿泊施設で、EAECによる食中毒が発生しました。この施設で使用された井戸水からEAECを検出したため、本菌が食中毒の原因と判明しました。また、このEAECが患者から検出されたEAECと同一であるのか、全ゲノム解析で解析したところ、同一菌であることが判明しました。

④ 富山県におけるミネラルウォーター類の成分規格検査体制

化学部 主任研究員 安川 和志

飲用水や調理用水として利用されるミネラルウォーター類については、安全性を確保するため、食品衛生法に基づき成分規格が定められています。当所では、県内で製造されているミネラルウォーター類が成分規格に適合していることを確認するため、検査を実施しています。本発表では、ミネラルウォーター類の成分規格の動向と、これまでの検査状況について紹介します。

4. 定員、その他留意事項

- (1) 現地参加：定員 60名（先着順）

あらためて連絡はいたしません。連絡がない場合は、来場可能です。

- (2) オンライン参加

参加申込書の参加方法欄の「オンライン」に○印をつけて下さい。後日、ZoomのURL等をメールでお知らせいたします。

- (3) 感染症対策

発熱や風邪症状がみられるなど体調不良の方は、来場をお控えいただきますようお願いいたします。

5. 参加申込み、お問合せ

11月10日（火）までに、参加申し込みフォーム

（URL：<https://shinsei.pref.toyama.lg.jp/Begr7tUK> または二次元コードの読み取り）または下記の申込書にご記入のうえFAXによりお申し込みください。事前申し込みがない場合、入場をご遠慮いただく場合があります。



ご不明な点などは、研究企画部（TEL：0766-56-8146）までお問合せください。

富山県衛生研究所 研究企画部 行き（FAX：0766-56-7326）

令和8年度富山県衛生研究所 研究成果発表会 参加申込書			
所 属			担当者
電話番号		E-mail	
参 加 者 氏 名	部 署・役 職 等		参加方法
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン

※ ご記入いただいた情報は、本発表会の実施に係る業務以外には使用いたしません。